

平成 30 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	広島県立呉南特別支援学校
-----	--------------

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

・「幼児児童生徒が自らできること」を指導するため、養護教諭と連携して手洗いの指導に取り組んだ。授業を行った学級では行動変容が見られたが、授業に入れていない学級もあり、学校全体の取組としては不十分な点があった。年度初めの会議等で周知するなど学校全体の取組にするための工夫が必要であると考えられる。

・各教科と関連付けた指導について、食に関する指導の全体計画が作成するだけで活用しきれていない現状がある。また、発達段階に応じた内容を指導できるよう担任と連携し、事前の打ち合わせを十分に行う必要がある。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

- ① 「外から帰ってきた時に手洗いができる」幼児児童生徒の割合：75%
- ② 苦手なものが食べられるようになった幼児児童生徒の割合：中間→最終 増加

3 食育の目標に対する具体的な取組

（1）【取組 1】（テーマ） 教科等と関連付けた指導について

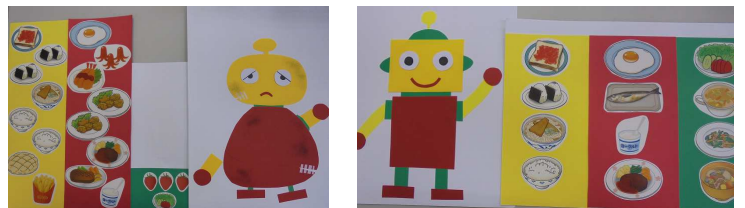
年度初めに家庭科を中心とした教科について、栄養教諭授業希望調査を実施した。その結果を元に、栄養教諭が必ず連携する時間に印をつけた食に関する指導の全体計画、年間指導計画を作成し、教職員に配付した。希望調査を実施したことで、今までに連携したことのない教科でも指導を行うことができた。

授業例①聴覚障害部門小学部 6 年 家庭科「朝食から健康な 1 日の生活を」

朝食の効果や献立内容の充実について、栄養教諭と一緒に勉強をした。

授業例②知的障害部門小学部 3 年 生活単元学習「バランスの良い食事について」

偏食のある児童が在籍する学級で、担任と連携して作成したロボットの教材を使用して、バランスの良い食事について授業を行った。授業後も給食時間に栄養教諭が言葉掛けを行っている。



授業例③知的障害部門高等部 2 年 作業学習（食品製造）「食中毒の予防について」

たくさんのお客様に手作りのお菓子をふるまうオープン会に向けて、食中毒を防止するため、具体的な実例や自分たちの調理で考えられる気を付けるべきことを一緒に考えた。

授業例④知的障害部門高等部 2 年 家庭科「栄養バランスのとれた献立と調理」

給食の献立の立て方を参考に献立作成の方法を指導した。栄養バランスだけでなく、旬や予算のことも考えることを確認した。



（2）【取組 2】（テーマ） 生活習慣アンケートについて

- ア 内 容 就寝時間、起床時間、朝食、苦手な食べ物、はみがき、排便など
朝食については2日分の記述式とした。
- イ 対 象 全幼児児童生徒及び保護者
- ウ 取 組 ○生活習慣調査：1年に2回（7月、12月）
○結果のおたより（保健安全部作成の資料）の配付

(3) 【取組3】(テーマ) 養護教諭と連携した手洗い指導について

ア 手洗い調査の実施

学校での手洗いの実態調査を実施した。外から教室に戻った時に手洗いができたかどうか。

評価基準 言葉掛けなしでできた。 言葉掛けや支援を受けてできた。 できなかった。

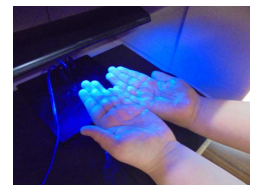
イ 全校集会での指導

教職員劇「手洗い戦隊アラウンジャー」を実施した。手洗いの必要性を再確認し、アラウンジャーと一緒に手洗いポーズを振り返ることで、実践意欲を高めた。



ウ 手洗い表彰の実施

手洗い調査の結果をもとに、手洗いチェッカーと観察により、手洗いの上手な幼児児童生徒を選出した。選出に際しては栄養教諭も参加した。優秀賞の幼児児童生徒にはアラウンジャーから表彰した。



4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

(1) 特別支援学校統一メニューの実施

昨年度に引き続き、特別支援学校の栄養教諭・学校栄養職員で統一メニュー「トクトク★おこめんスープ」を考案、実施した。また、統一の配付資料も作成し、保護者に配付した。



トクトク★おこめんスープ

(2) 校内応募メニューの実施

家庭科の授業で生徒が考案し、ひろしま給食100万食プロジェクトに応募をしたが、惜しくも入賞を逃したメニューを給食で提供した。提供日には該当学級からのメッセージを他学級にも発信した。



知的障害部門高等部生徒考案
ちりじゃこ タ・タン・タンタンめん

(3) 給食試食会

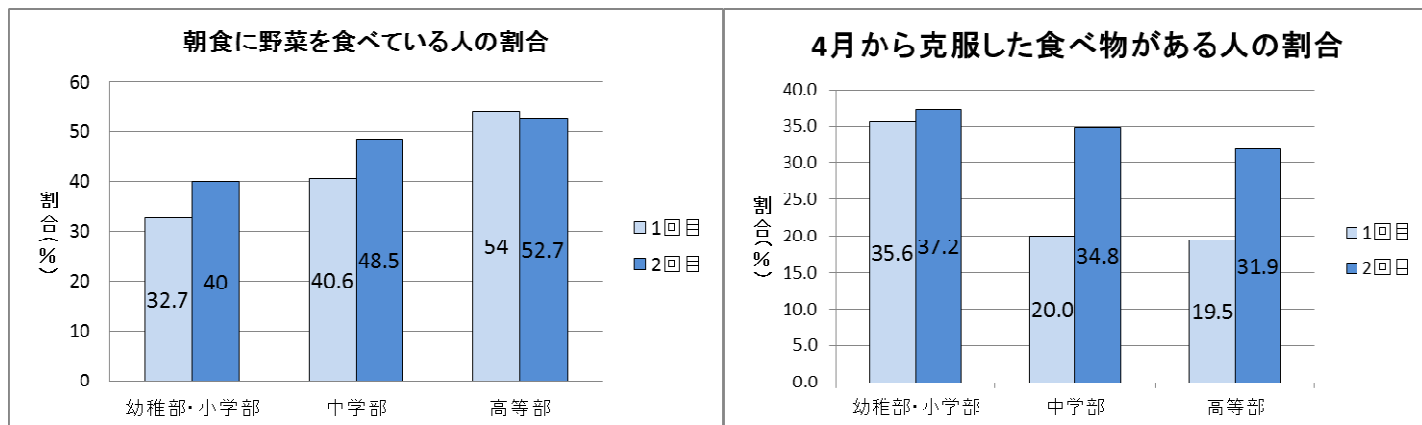
保護者対象の給食試食会で「ひろしま給食」を実施した。家庭でも活用していただけるように、情報発信をした。

5 取組に対する成果と課題

(1) 【成果】

〈生活習慣アンケートより〉

全体	1回目（7月）	2回目（12月）
毎日朝食を食べている人	90.0%	87.3% ↓
朝食で野菜を食べている人	42.3%	56.6% ↑
4月から克服した食べ物がある人	26.1%	34.5% ↑



・朝食で野菜を食べる幼児児童生徒が7月から12月に向けて増えていた。これには、給食等の経験を積み、食べられるものが増えたことが関係すると考えられる。

(2) 【課題】

〈手洗い調査より〉

	◎言葉掛けなし	○言葉掛けや支援あり	◎○合計
1回目（7月）	44.9%	49.6%	94.5%
2回目（12月）	49.5%	44.9%	94.4%

・言葉掛けなしで手洗いのできる幼児児童生徒が約半分であり、自主的な手洗いがまだまだ定着していないと考えられる。

〈生活習慣アンケートより〉

・高等部で朝食に野菜を食べている生徒の割合が減っている。自分で考えることができる能力の高い高等部の生徒に対し、朝食の内容の変容につなげていく指導を行っていく必要がある。

6 今後の取組に向けた改善方策について

・手洗いについて、次年度はさらに「自主的に」取り組む幼児児童生徒を育成するため、引き続き養護教諭、担任と連携し取組を進めていくこと。

・食に関する指導について、今年度、幼児児童生徒の実態に応じて内容の充実を図ることができた。今後もまずは実態把握を十分行い、それぞれの発達段階に応じた教材や指導方法について担任と密に連携をしていくこと。

・生活習慣の改善に向けて、アンケートの結果や試食会、文化祭展示など保護者への情報提供、情報共有の場を積極的に設けること。